

# 自衛隊習志野基地の強化に反対します

## すすむ海外派兵部隊としての訓練強化

「これまで聞いたことのないものすごい爆発音ができるようになった」「早朝からヘリが編隊で飛んできた」「墜落するのではないかと不安」――自衛隊習志野基地に所属する第1空挺団・特殊作戦群が、2007年3月に発足した「中央即応集団」の編成部隊に改組されて以降、習志野基地の訓練と、これによる周辺の住民生活への被害が拡大しています。

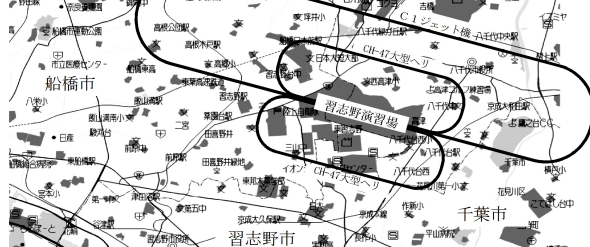
中央即応集団とは、米軍と一体に海外でたたかうことを使命とした、かつてなく危険な軍隊であり、習志野基地の第1空挺団・特殊作戦群はこの主力部隊です。



CH-47大型ヘリ(中央即応集団のホームページより)

## 生活無視し早朝・夜間も 住民不安…「墜落するのでは」

訓練時間を「午前8時から」と告知しながら、早朝6時から地上でエンジンをかけ爆音を響かせる、午後9～10時まで夜間訓練を実施、土日祝日や告知していない日にも訓練を行う、住宅地の真上を超低空で飛行する――など住民生活を無視した訓練が繰り返されています。



降下訓練等の飛行ルート(陸上自衛隊の資料より作成。この他に木更津駐屯地や東富士演習場など他基地との間でヘリ等の自衛隊機が頻繁に往来している。)

2008年3月には、パラシュート降下訓練で、演習場外に誤って降着する事故が起きました。同様の事故は、04年、06年にも起こっています。

03年1月には、落下傘とヘリをつなぐフック金具付き布製ロープ(長さ4・5メートル、重さ560グラム)を誤って落とし、演習場横の住宅地にある民家のスチール製物

置の屋根を突き破る事故を起こしました。

これらの事故では、幸い市民に怪我などはありませんでした。いずれも一歩間違えば人命にも関わる重大事故です。

## 住宅密集地、全国一狭い演習場

習志野基地は、自衛隊が降下訓練を実施している7つの演習場の中で最も面積の狭い演習場です(上表参照)。人口95万人がくらす住宅密集地のど真ん中で降下訓練を実施すること自体に大きな誤りがあります。

日本共産党は、「全国一危険」な自衛隊降下訓練場＝習志野基地の撤去を求めるとともに、当面緊急の措置として、土日・祝日と早朝・夜間における訓練の中止を強く求めています。

降下訓練を実施している演習場の面積

| 所在地   | 演習場名 | 面積(ha) |
|-------|------|--------|
| 1 北海道 | 矢臼別  | 16,815 |
| 2 静岡県 | 東富士  | 8,832  |
| 3 大分県 | 日出生台 | 4,987  |
| 4 滋賀県 | 饗庭野  | 2,475  |
| 5 岩手県 | 岩手山  | 2,289  |
| 6 群馬県 | 相馬原  | 904    |
| 7 千葉県 | 習志野  | 221    |

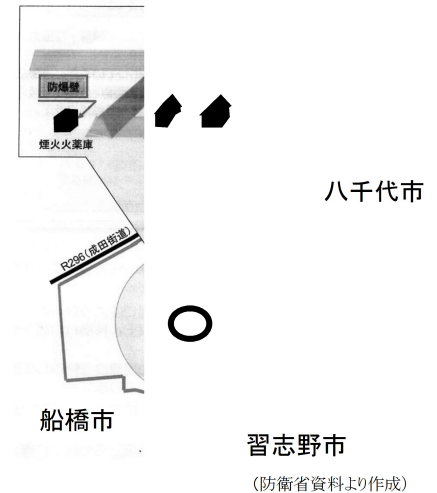
## 火薬庫が21倍に…

## 建設計画の撤回を

現在、習志野基地には1トンの火薬庫がありますが、防衛省は「小規模で部隊の即応性に制限を受けている」として、21トンの火薬庫への建替を計画しており、今年4月にも着工しようとしています(右図参照)。これはダイナマイト21万本分の火薬量に相当し「爆発したらどうなるのか」と住民の不安が広がっています。

この火薬庫は、「習志野駐屯地に駐屯する部隊が射撃訓練等を行う際に必要な弾薬、火工品等を貯蔵する」(防衛省)もので、訓練の規模が今以上に飛躍的に拡大する可能性があります。また、補充のために、いままでの何倍もの火薬が、住宅密集地を通して、トラック輸送で常時搬入されることとなります。

日本共産党は、住民説明会の開催、建設計画の撤回を強く要求していきます。



2010年2月号外  
発行●日本共産党西部地区委員会  
船橋市二和東6-41-20 TEL440-5240